



研究テーマ

## 21世紀を生き抜く力を培う

### 主体的・協働的な学び

## ～放送教育によるアクティブ・ラーニング～

### 21世紀を生き抜く力を培うために

「21世紀を生き抜く力」については、すでに多くの所で語られ「基礎的・基本的な知識・技能の習得」に加え「思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上に加え、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等を重視する。さらに、これらは、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育まれることに留意する必要がある。」などと記されています。こうした考えを受けて、教師は、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ばせるか」という、学びの質や深まりを重視した学習を進めていくことが必要です。そのためには、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、指導の方法等を充実させていくことが必要となります。こうした時、課題の発見から解決、発表という学習過程に、課題作り、課題解決のための資料等として、番組やNHK for Schoolのコンテンツを活用していくことを大いに進めていきたいと考えます。さらに、そうした実践の成果や評価を、全国大会やブロック大会、プロジェクト研究等で広報していくことで、放送教育研究の成果を広く全国で共有できると考えます。一人一人の子どもが、21世紀を確かに生き抜く力を培うべく研究を進めていきます。

### 主体的・協働的な学びを通じて

社会のグローバル化が進展する中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、自ら課題をもって他者と協働してその解決に取り組み、新たな価値を創造する力、社会性や人間関係形成能力などを育成することが一層重要となっています。こうした時代にあって、全放連は、時代の変化に対応して様々なスタイルで制作されている放送番組を「その特徴に合わせて効果的に活用する」ことを視点として、学習過程の策定や指導方法の工夫・改善を進めてきました。本年度は、学習者である子どもたちが、課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業をこれまで以上に推進することで、情報社会を生き抜く確かな学力を一人一人に育てていきます。一人一人の学びを大切にするために、教師は、子どもたちが番組から受けた情報をもとに、互いに関わり合っただけで課題解決に向かうなどの、協働的に学ぶことができる環境や学習過程を構想することで、学習者主体の保育・授業を展開していくことが大切です。全放連が長年にわたって大切にしてきた、「学習者を主体とした教育」を主たるキーワードとして、放送番組、NHK for Schoolを活用した教育を今年度も進めていきます。

## ～放送教育によるアクティブ・ラーニング～

全放連は、設立以来65年余り、番組の特徴やその良さを生かして、授業実践を柱に研究に取り組んできました。番組視聴後、一人一人の感動や驚き、気づきを大切にしたい授業づくりを進めることで、子ども一人一人の学びが大切にされ、主体的、積極的に学ぶ姿が見られるようになり、放送教育ならではの、発展的で継続した学びを実現することができました。こうした学習スタイルは、まさに現在の教育で求められている「アクティブ・ラーニング」と合致するものと考えます。全放連がこれまで取り組んできた、「子ども一人一人の個性を大切にしたい、学習者主体の学び」を一層進めることで、放送教育によるアクティブ・ラーニングという先進的な教育活動の実現を今後も目指していきます。